

## (2) 日本人の幸福度に関する分析

所得や不平等以外のものが幸福度に影響を与えている可能性が浮かび上がるが、では、人々の幸福度に影響を与える要因としてはどのようなものがあるのでしょうか。ここでは、2008年のデータを用いて幸福度に影響を与える要因を調べて見ることとする<sup>73</sup>。

これまでの研究成果を踏まえて、幸福度と性別、年齢、職業（失業中を含む）、子ども、ストレス、トラブルや困ったときに相談する人の有無、婚姻、世帯全体の年収、学歴などの12項目との関係を推計した<sup>74</sup>。①女性は男性よりも平均的に幸福、②年齢については、年齢が高い人のほうが不幸で、③大学または大学院卒の人はその他の学歴の人よりも幸福、④世帯全体の年収が多い人ほど幸福、⑤結婚している人は未婚の人や配偶者と離死別した人よりも幸福、⑥子どもがいる人はいない人よりも幸福、⑦困ったことがあるときに相談できる人がいる人はいない人よりも幸福、⑧失業中である人は就業している人、専業主婦・主夫、学生などよりも不幸、⑨学生は働いている人や失業中の人などその他の人よりも幸福、⑩ストレスがある人はない人よりも不幸ということであったものの、⑪職業の違い、⑫災害や病気などの経験の有無は幸福とは無関係であった（第1-3-4表）。

**第1-3-4表** 幸福度は属性や置かれている状況に影響を受ける

### ●幸福度に影響を及ぼす要因●

幸福度にプラスの影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性であること</li> <li>● 子どもがいること</li> <li>● 結婚していること</li> <li>● 世帯全体の年収が多くなっていくこと</li> <li>● 大学または大学院卒であること</li> <li>● 学生であること</li> <li>● 困ったことがあるときに相談できる人がいること</li> </ul>
幸福度にマイナスの影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年齢が高いこと</li> <li>● 失業中であること</li> <li>● ストレスがあること</li> </ul>
影響なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自営業であること</li> <li>● 何らかのトラブルを経験したこと</li> </ul>

- (備考)
1. 内閣府「国民生活選好度調査」(2008年)により作成。
  2. 「あなたは現在、ご自分のことをどの程度幸せだと思いますか」との問に対する回答(「幸せである」、「どちらかといえば幸せである」、「どちらかといえば不幸である」、「不幸である」の4段階で回答)と他の質問項目に対する回答との関係を統計モデル(Ordered Probit モデル)を用いて分析した結果。
  3. いずれも5%有意水準。
  4. 詳細は付注第1-3-1を参照。
  5. サンプル数は、全国の15歳以上80歳未満の男女3,752人。

73 「国民生活選好度調査」では、「あなたは現在、ご自分のことをどの程度幸せだと思いますか」との問に対し、「幸せである」、「どちらかといえば幸せである」、「どちらかといえば不幸である」、「不幸である」の4段階で回答してもらっている。

74 統計モデル (Ordered Probit) を用いて推計 (詳細は付注第1-3-1を参照)。

### (3) 分析結果に基づく考察

以下では、主な分析結果について、その結果をもたらす原因について考察を加えてみる。

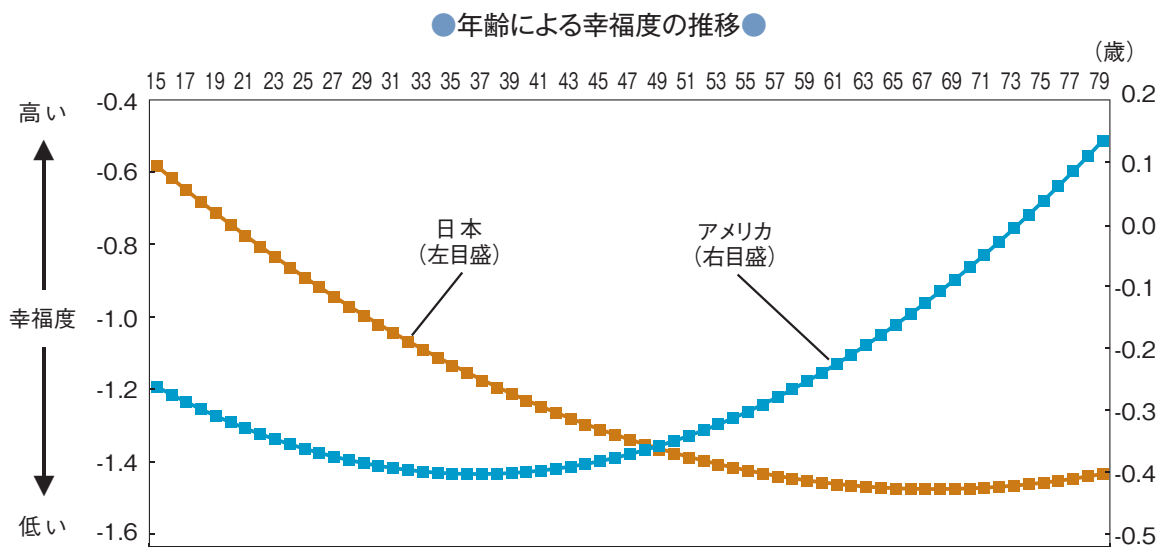
#### ● 性別と幸福度

①の結果はこれまでの調査結果とも整合性がある。この結果は様々に解釈できるが、純粋に生物学的な意味で女性であれば男性よりも幸福を感じやすいという意味ではない。男女の間には、社会的文化的性差が存在し、そのあり様は国や社会によって異なっている。ある国や社会における社会的文化的性差のあり様も男女の幸福度に影響を与えている可能性がある<sup>75</sup>。

#### ● 年齢と幸福度

②については、年齢が高い人のほうが不幸であるが、これまでの諸外国における調査では、年齢と幸福の間にU字型の関係があるとの結果が出ているものが多い<sup>76</sup>。つまり、若者と高齢者は熟年層よりも幸福だというのである。その理由としては、熟年層に入る頃には、自分の人生がある程度定まってくるので、人々は若い頃持っていた野心を実現することをあきらめざるを得ないから幸福度が下がる。その後の高齢期に入ってから考え方を換え、後半の人生を楽しく充実させようと努力するから幸福度がまた高まるのではないかとの考察がなされている<sup>77</sup>。しかし、今回の推計ではU字型にはなっておらず、67歳を底にして79歳にかけて幸福度はほとんど高まらないL字に近い形状を取っており、アメリカの結果と比べても我が国は特異と言える（第1-3-5図）。

第1-3-5図 日本人の幸福度は高齢になっても上昇しない



(備考) 日本については、付注第1-3-1掲載の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。アメリカについては、David G. Blanchflower, Andrew J. Oswald「Well-Being Over Time In Britain and the USA」掲載のTable4(1)の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。

75 フライ／スタッター (2005)。なお、男性ダミーは喫煙の代理変数であり、男性であるから不幸という訳ではないという研究結果もある (筒井・大竹ほか (2005))。

76 Blanchflower and Oswald (2008)、Senik (2002)

77 フライ／スタッター (2005)

## ● 対人関係と幸福度

⑤、⑥、⑦はいずれも対人関係と幸福度についての分析である。⑤の既婚者の幸福度が高いというのは過去の多くの研究結果と一致している<sup>78</sup>。これらからは女性本人の賃金水準の多寡にかかわらず結婚によって幸福度が上昇し、その後は少しずつ低下傾向をたどると言われている。したがって、結婚によって得られる親密な人間関係が精神的やすらぎとなり、幸福度を高めると考えられる。また、⑥の子どもについても⑤と同様の理由により幸福度を高めると考えられる。なお、子どもの誕生と結婚の関係については、子どもの誕生と子育てにより結婚の幸福度は低下するとの調査結果がある<sup>79</sup>。親は子どもを肯定的に捉えているが<sup>80</sup>、子育てに時間とエネルギーを費やすため、結婚自体の幸福度が下がると推察されている<sup>81</sup>。⑦は、ほかの調査でも信頼が高い社会やソーシャル・キャピタル<sup>82</sup>が存在する社会ではそうでない社会より幸福度が高いという結果が得られている<sup>83</sup>。困ったときに相談できる人、言い換えれば、気心が知れ自分の心の拠り所になる人、社会的つながりが存在することが、幸福度を高めるということを示し、対人関係が幸福に与える重要性を裏付けている。

## ● 失業やストレスと幸福度

⑧については、失業により不安定な状況に置かれることが不幸福感を生み出している。過去の多くの研究でも、失業によって非常に大きな不幸福感をもたらされるという結果が出ている<sup>84</sup>。例えば、英国の研究では、「離婚や別居といった幸福度にマイナスをもたらすどのような要因よりも、失業は幸福を抑圧してしまう」と述べられている<sup>85</sup>。さらにその原因としては所得の減少といった経済的不安以上に非経済的なものが大きいとされる。人の社会的地位は就いている仕事により判断される側面があり、失業した人は地位を失ったと感ずることが幸福度の低下に影響を及ぼすとの指摘がなされている<sup>86</sup>。

⑨についても、ストレスがある人が不幸であるということは納得がいく結果である。また、ストレスが幸福度に影響を与えるだけでなく、幸福感がストレスを緩和する可能性があることが心理学の分野で指摘されている<sup>87</sup>。通常、人は、ストレスの原因が生じてから、そのストレスに対処をする。しかし、幸福感などのポジティブな感情を持っている場合には、あらかじめストレスの原因の発生そのものを抑えることができるというのである。

---

78 詳細は白石・白石 (2006)、フライ／スタッツァー (2005) 参照。

79 Tsang, et. al. (2003)

80 White, et. al. (1986)、Crohan (1996)

81 Lawson (1998)

82 「ソーシャル・キャピタル」とは、「人間がつくる組織における相互の間の信頼、規範、ネットワークのようなソフトな関係」をいう (宮川公男、大守隆編「ソーシャル・キャピタル～現代経済社会のガバナンスの基礎」(東洋経済新報社))。

83 Putman (2001)

84 大竹 (2004)

85 Clark and Oswald (1994)

86 Stutzer and Lalive (2000)

87 大塚・鈴木ほか (2007)